

吊り筋の埋込長

$$\ell \geq \frac{\cancel{X} T}{2\pi \cdot D \cdot \tau_{oa} \cdot m} \dots\dots\dots (式 2-3-16)$$

ここに

- P : 吊り筋1本あたりに作用する荷重 (応力算定用荷重)
- W : セルラーブロックの設計重量 $\leftarrow T$: 吊り筋1本あたりに作用する荷重 (埋込長算定用荷重)
- W' : セルラーブロックのふくらみによる増加荷重 (0.05W)
- F : セルラーブロック1函当たりの底面付着力 (~~0.8A~~ 3.0)
ただし、Aはセルラーブロックの底面積
- K : 不均等係数 (1.8)
- N : セルラーブロック1函当たりの吊り筋本数
- τ_{sa} : 吊り筋の許容引張応力度
- σ_{sa} : 吊り筋の許容せん断応力度
- τ_{oa} : セルラーブロックの吊り上げ時におけるコンクリートの許容付着応力度
- m : フックの効果 (1.5)

3.2.13 付属設備の設計

手引p.323「3.6 付属設備」を参照すること。

3.3 設計計算例

「図2-3-8に示すC漁港の南防波堤を設計せよ。ただし、型式構造は混成型セルラーブロック式 (消波工なし) とする。」

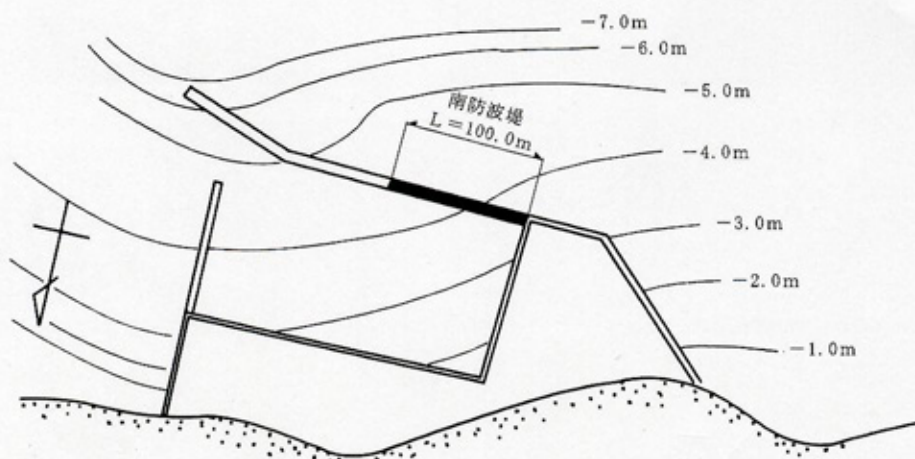


図2-3-8 C漁港防波堤計画位置図